

地域医療福祉フォーラム2015:アンケート結果

開催日時:平成27年11月7日(土)13:30~16:30 会場:びわ文化学習センター「リユートプラザ」

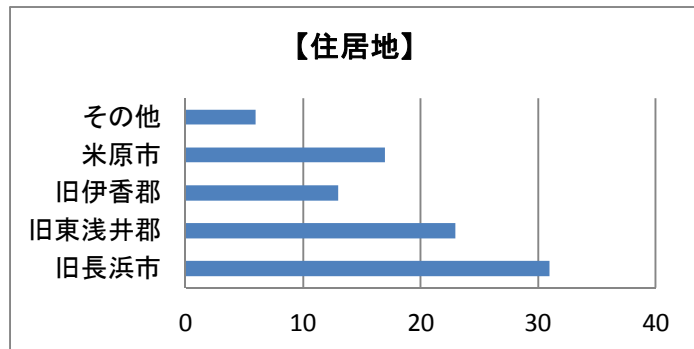
参加者:163人(スタッフ込)一般47人:医療65人:介護20人:行政31人 (うち当日受付48人)

アンケート回答者:90人 アンケート回収率:55% 広報の案内希望者:14人

1、属性について

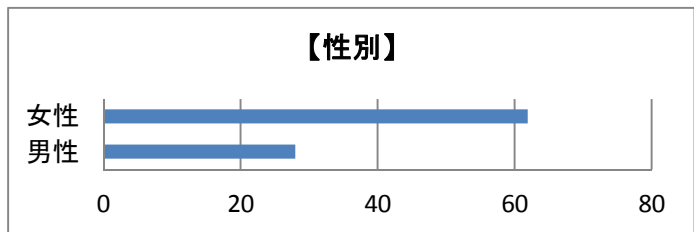
【住居地】

旧長浜市	31
旧東浅井郡	23
旧伊香郡	13
米原市	17
その他	6



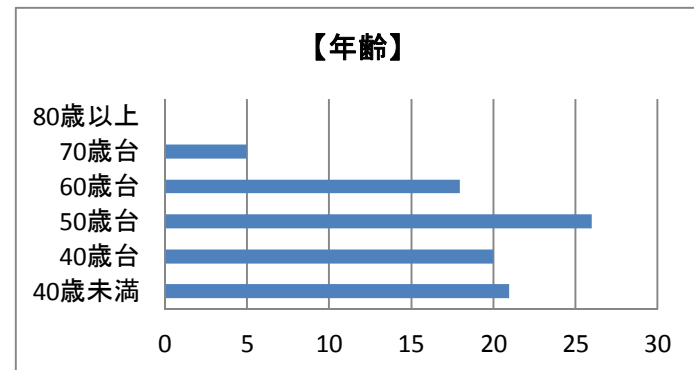
【性別】

男性	28
女性	62



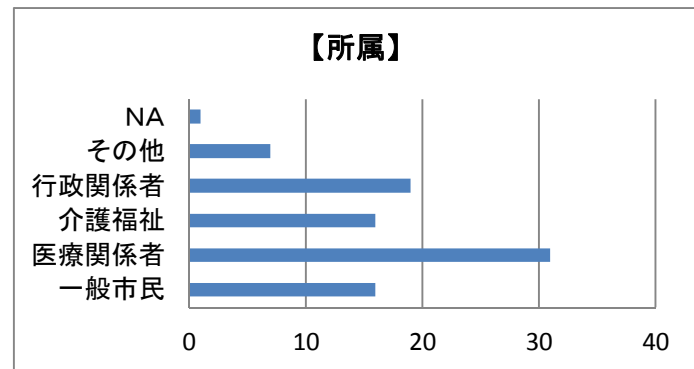
【年齢】

40歳未満	21
40歳台	20
50歳台	26
60歳台	18
70歳台	5
80歳以上	0



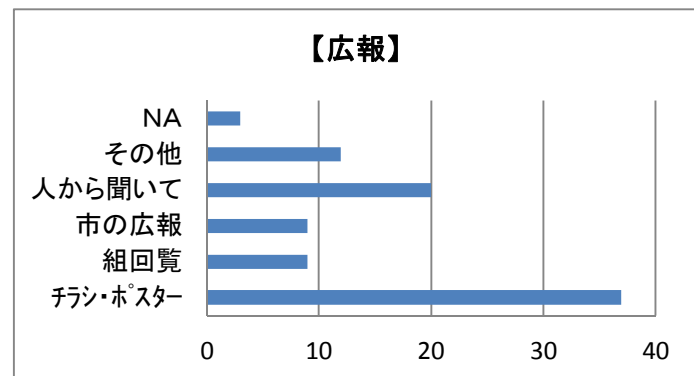
【所属】

一般市民	16
医療関係者	31
介護福祉	16
行政関係者	19
その他	7
NA	1



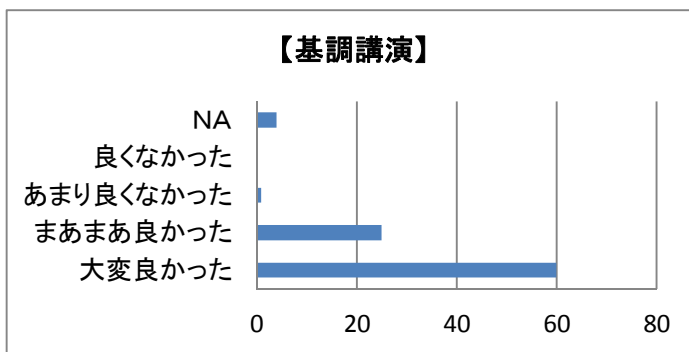
2、【広報について】

チラシ・ポスター	37
組回覧	9
市の広報	9
人から聞いて	20
その他	12
NA	3



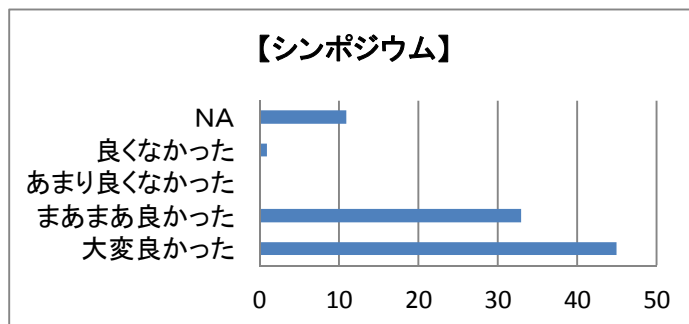
3、 基調講演「住み慣れた町で長く暮らし続けるために」 杉本みぎわ先生について

大変良かった	60
まあまあ良かった	25
あまり良くなかった	1
良くなかった	0
NA	4



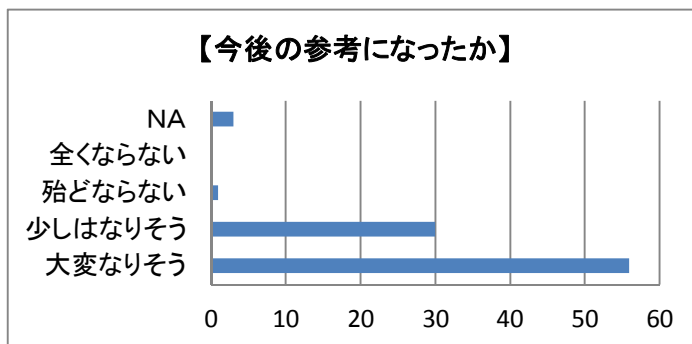
4、 シンポジウム「地域で支える～みんなで支えるために～」

大変良かった	45
まあまあ良かった	33
あまり良くなかった	0
良くなかった	1
NA	11



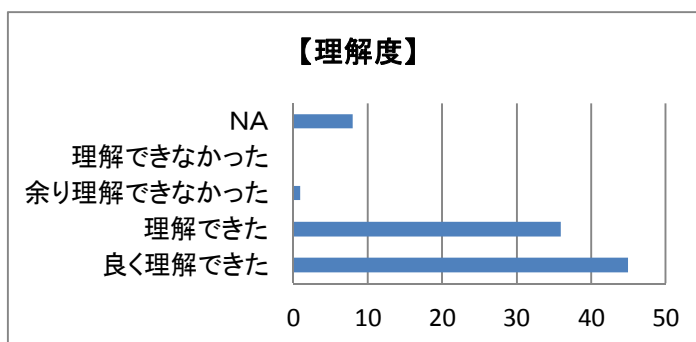
5、 今回のフォーラムは参考になったか

大変なりそう	56
少しはなりそう	30
殆どならない	1
全くなりそう	0
NA	3



6、 「在宅で専門職ができる事」について理解度

良く理解できた	45
理解できた	36
余り理解できなかった	1
理解できなかった	0
NA	8



3-「基調講演」についてのご意見・感想

- ・我が地域では民生委員さんが定期的に高齢者宅や独居宅を回られたり、周囲から情報を貰ったりして早期発見、対処に努められています。「暮らしの保健室」があることで相談だけでなく、それ以上に生きがい、絆が生まれるという+αがあり感激しました。まだ全国的には少ないですね
- ・居場所があるということはとても安心感につながると思います。利用するだけでなく、高齢者自身、市民自身がボランティア側として、支える側として通う事が自身の健康を保つ生きがいになるという事を感じました
- ・昔は近所の人々の生活様式などを皆が知っていたようですが、近年はお隣でも何も知らないような状態です。プライバシーなどもあるかと思いますが、昔のように近所の事をおせっかいであっても知っておく必要があるように思います
- ・学生時代から医療や介護の事を考える機会を与えるべきだと思う。QOL, QODを其々考える事の大切さ
- ・「暮らしの保健室」恥ずかしながら初めて聞きました。独居や老老介護が身近な事になっている中、とても素晴らしい取組みをされていると思いました。
- ・在宅生活、療養においても自己決定している人は生きていくのでしょうか、それをその人が自分はどうしたいのかその人の力を支え、引き出す。改めてその大切さを感じました
- ・在宅介護医療モデル事業(?)補助金(助成金)事業の内容が良く判らない。社会福祉協議会との関わり連携が判らない。治療と療養、終末、其々の時期での対応の在り方はどうあるべきか
- ・地域の人のイキイキとした映像が見られたことでより興味深かった。ボランティアで成り立っている事に驚いたし、志がないとできない事もあるのかなと思う
- ・心配な事、話したいことがある時に気兼ねなく行く所があるのはいいですね
- ・訪問看護のPR。早期からの関わりのお話をして頂き、嬉しく思いました
- ・実践されている事を基に講演して下さったので話がすーと入ってきた。地区単位で「暮らしの保健室」があれば良いのですがとてもエネルギーのいる事だと思う。秋山先生、杉本先生すごいです
- ・「暮らしの保健室」と言う活動があることを初めて知りました。でもボランティアで運営するのは都会では可能ですが、地方では難しく助成金だけでは足りなくなって継続できないのではないかと思います
- ・訪問看護の利用の仕方から看取りについて考えさせられた
- ・地域で支えていく体制を如何に作っていくか課題である。地域の理解をすべて得るのは不可能であるからどう対処していけばよいか・・・
- ・残念ながらフォーラムでしか聞けない話(裏話)が少なかったように思います
- ・ご本人がご自分の事として主体的に取り組む事、独居、高齢世帯の増加の中、ご近所付き合いなど横の繋がりが大切だと改めて思いました
- ・「暮らしの保健室」のような整った施設の設置は中々難しいかもしれませんが地域での高齢者の居場所作りのヒントにさせて頂きたいと思います
- ・杉本先生のお話により、訪問看護の使命や、やりがいを強く感じました。有難うございました
- ・暫らく職場から離れていますが、経験した事そのものだったので再確認できました。在宅看取り、まだまだ難しいです。
- ・家族や自分の事、日頃の仕事の取り組みを考える良い機会になりました
- ・近くに同様のものがないので想像がしにくかった
- ・事例を用いながら、講演を頂き関心を持ってました。知識の整理と自分の今、置かれている立場での活動の参考となりました
- ・訪問看護は軽度な内から活用する事を勧められ、見つめ直すことに気づかされた
- ・誰にも来る終末期をどうしようか?と言う不安が少し軽くなったように思います
- ・暮らしの保健室のようなコンパクトシティでの話であり、その保健室に通う交通手段の確保が難しい。資金面にも大いに問題あり
- ・実践しておられる具体例が豊富。また、訪問看護についても詳しく触れられて参考になった
- ・ピンチヒッターとしてご苦労様でした。秋山先生の資料で非常に解り易くご指導いただきました。ビデオや事例を交えて具体的に在宅看取りの必要性を説いて頂き、在宅での暮らしを支える上でのヒントを頂きありがとうございました
- ・秋山先生の生声で聞かせて頂けず大変残念でしたが、現物の熱い思いが身近に感じられる内容であり私自身、明日への活力を頂きました
- ・暮らしの保健室の内容、取組みは興味深かった
- ・障がい者の医療にも触れて欲しかった。高齢者及び障がい者への社会全体の理解度を向上すべき施策があって欲しい
- ・お聞きすると来たい人が、誰でも来れる地域のサロンのような場を是非作りたいと思いました
- ・実際に活動されている内容を見て、こんな事業がもっと広がれば良いなあと思ったし、すぐに大きい病院にかかるのではなく在宅で過ごすことがその人らしさを保てるのではと思いました

- ・ 地域の中に住んでいる事を大切に、日頃の健康、生活を支えていく事が大切と言う事が分かった。又、連携する事で支えられるという事がよく分かった。連携する事の大切さがよく分かった
- ・ 同感できる内容が多くありました。最期をどのように迎えるかを考える機会に皆さんが感じてもらえたらすごくいいと思います
- ・ 人口密度の高い地域での医療・看護ケア提供の場を教えてもらい参考になりました。又、広域で交通機関も少ない湖北地域でどの様な取り組みをしないといけないのか考える機会が持てました
- ・ 地域包括ケアの一番大切な根っこは、市民一人ひとりの心構えという事が良くわかった
- ・ 暮らしの保健室は何処の地域にも必要な場所であると改めて実感します。制度の中だけでは動きにくい現状問題点を感じて、解決策を探し実行に移していきたいと思っている。Ns・ヘルパー・ケアマネ・Drが迷うことなく進んでいける国や市のサポートを充実させてほしいとそんな事をより思いました
- ・ 一人暮らしでも自宅用最期を迎えられる。訪問看護が来てくれる
- ・ 地域医療を大変良く、勉強になりました
- ・ 活動状況がイメージできた
- ・ 連携する方々のポジションの本音の部分を良く判って話しておられるなど感じました。「行政が何とかしてくれる」「親は何時までも元気」と何となく感じている所を見透かされていました。又、「顔が見える連携」も実際、何も言えず、見えてないのと一緒と言うのも、色々な現場をみられているのだなと感じました。信頼できる安心感に繋がるのはこういう所なのかなとも感じました
- ・ 「主人公はひとり一人」と言う言葉が心に残った。訪看をしているが予防の段階から関わり、本人の望む最後のお手伝いができたら良いなと改めて感じた。又、暮らしの保健室のような場が増えていく社会になれば良いなと感じた
- ・ 先進的事例で興味深かった
- ・ 所用がありシンポジウムからの参加でした。拝聴したかった！残念！
- ・ 大変解り易い講演でした。テーマにマッチングした内容であったと思います
- ・ 今、医療における問題点、改善点を知る事ができた

4-「シンポジウム」についてのご意見・感想

- ・ 各分野からの話が聞けてよかった。特に訪問歯科診療は自分の実母が受けていたので重要性は知っているが認知度は低いと思われるのでケアマネさんなどを通じてPRが必要ですね
- ・ 報告が上手くまとめられており分かりやすかった
- ・ 其々の職種の役割が市民の方に伝わったと思います。特に介護者の方の話、在宅でみるという事が色々な支援者の助けを貰いながら、家族の絆も強まった良いケースだなと感じました
- ・ 薬剤師さんの在宅訪問について興味深かった
- ・ 地域で支えていくという事の考え方を伝えていく上で今後の役立つ意見を聞く事ができた
- ・ 色々な方の支援も大切だと思いますが、介護する家の者もある程度の知識が必要だと思いました。少しの知識でも良いので学ぶことが大切だと思います。その上で医療関係者の方々や看護の方々の手をお借りしたいと思います
- ・ 地域連携が大切であると感じた
- ・ 詳しい資料に、其々の立場から解り易い説明で在宅看取りへの看護(桜の花を一緒に見られた事)の様子やご家族の方の在宅介護を決められた気持ち(母親の生きざまを思う気持ち)もよく感じられ良かったです
- ・ 其々の立場の活躍がよく分かった。長浜市の在宅死亡の状況をどう見ればよいのか、更に進めていく事を目指すのか・・・とか
- ・ どんな方がどんな役割をされているのかよく分かった
- ・ 横田さんの言葉はとても正直で心温まるものでした。他のシンポジストの方、其々に熱心で聞けてよかった
- ・ 家族の言葉で、介護疲れは社会参加できない事と言われた事が残った
- ・ 実際に地域で在宅活動をされている方のお話でしたので参考になりました。歯科や薬剤師の在宅訪問は知りませんでした
- ・ ご家族の生の声が聞けて良かったです
- ・ 家族の方の具体的な話が聞けて良かったです
- ・ 在宅介護に携わる方、様々な立場からお話をお聞きし、大変勉強になりました
- ・ 家族の横田さん最高。皆さん良く判りました
- ・ 介護されている方の思いは身に染みました
- ・ 当事者の意見が聞けてよかった
- ・ 具体例、事例を示して頂き理解することができました
- ・ 其々の職種の方のお話、ご家族の方のお話は良かった。元気が出ました。参加して良かったです
- ・ 多様な話が聞けました

- ・ 具体的でよい
- ・ 其々の職種の看取りでの役割が良く理解できました。訪看、歯科の説明が非常に分かりやすかった
- ・ 悪化予防にも、色々なサービスの形を活用して、自宅で暮らせる形が取れるといいと感じた
- ・ 家族の実例に基づくお話は大変参考になった
- ・ 湖北サービスの一端がよく分かった
- ・ 各専門での説明があり解り易かった。病院からまた施設をと考えておられたご家族が在宅に切り替えられた途端に症状が改善された話には驚かされました
- ・ シンボリスト家族様の話が本当によかった
- ・ 其々の立場から、介護者を支えるためには、どうしたらよいのかを考えておられることが良かった。役割が分かり連携できたら本当に介護者を支えられるのだと思いました
- ・ ご家族の本音や気持ちが聞けてよかったです
- ・ 家族介護者の方の話が現実的でよかった、何らかのきっかけで在宅看取りを決心する。この心構え、覚悟が必要。その決心を支える体制、安心を与えるPR、機会が必要と感じた
- ・ 在宅介護が今後の指針となった
- ・ 在宅医療の際には訪問しますと言われても実感が湧かない。まだ在宅が身近でない者に何か関係(共助)する事はできるのでしょうか
- ・ 各職種の立場からの意見が聞けてよかった。普段中々利用されていない訪問歯科や薬剤師の話がありどういう事をしてもらえるのか分かって良かった
- ・ 多種の専門職の話聞いた
- ・ 初めて聞く話が多かった
- ・ やっぱり、本人の意見が大事！ 選べるよう十分家族・本人の思いを聴くのが大事！
- ・ ご家族の生の声が良かった
- ・ 在宅に対し其々の職種が行っている事が分かった。専門性を活かす事の重要性も感じた。まだ在宅が普及していないと感じているので対策が必要と感じた
- ・ 多くの事柄で参考になった

5-「在宅医療や介護が必要になった時の参考になったか」についてご意見・感想

- ・ どの様な医療や介護を受ける事ができるのか分かりやすかった
- ・ 住み慣れた地域で最期まで暮らすためには医療との向き合い方や選択をどうするのかという事を常々前もって考えておく必要がある
- ・ 往診してもらえるお医者さんの見つけ方
- ・ 両親も含め、他の方々でも、今後における老々との付き合い方を、今一度考えさせられることが多かった
- ・ 8月に母をグループホームから迎え看取る事ができました。訪問看護師の方々にアドバイスを頂きました。心つもりをしていましたが、やはり食事の事などで不安なことが沢山ありましたが、皆さんに支えられ、何とか看取りができました。自分たちで抱え込まず、皆さんの手を借りる事は大切な事だと思います
- ・ 其々の専門職の役割が分かった
- ・ 薬剤師情報
- ・ 10年後、地域医療や地域福祉の機能や体制がどう変わっていくか予想できない。後期高齢者に対する社会情勢が不安定になり、病院医療の崩壊、地域福祉の破滅が起こっても良いような、生き方を考える
- ・ どんなサービスがあるか分かった
- ・ 暮らしの保健室、とても参考になりました。自分でできる事を考えたいです
- ・ どういう事ができるか、と言う事を「知る」事が大切だと思います。でも、在宅でと言う事は、あくまでも家族の体制が整っていないとできないと思います。仕事を持つ家族でも「在宅」ができるのか知りたいです
- ・ ケアマネジャー・保健師としての関わり、祖父母の医療、介護を考える時に、もう一度、原点に戻って考える事ができました
- ・ 介護は365日／年、24時間／日それ以上必要です。介護される人も気を使い、介護する人は精神的負担が沢山ある
- ・ 自分がどうありたいかをしっかり若いうちから考えておくといざという時に大きな迷いや不安、混乱が無くなるのではないかと思います
- ・ 訪問歯科など利用できると良いと思う
- ・ ケアサービスの構築は地域住民の理解が第1、意識の改革が必要
- ・ 在宅・在宅と言われると、親を施設に入れる事の罪悪感を感じる人が出てくるように思います。家で看られない人もいます
- ・ 在宅看取りを推進するには、まずはかかりつけ医を持つことでないかと思います
- ・ 早めにかかりつけ医を持ち、早めに相談する。 予防する事
- ・ 都市地域と、地方地域は現実的にギャップがあり、均一的なサービスを希望したい

- ・今も夫の親と同居しており、訪問看護(1/W)訪問介護(毎日)を活用しています
- ・病院や施設よりも在宅が良いという事は分かった。そのための支援にはいろいろあり、選択して決められるという事が分かった
- ・高齢の親の介護で、地域の皆さんの助けを借りています
- ・祖母の看取りを自宅で行いましたが、ぎりぎりまでグループホーム、食べられなくなり自宅、「本当は、もっと早く連れて帰りたかった自分」と、「状況を受け入れるのに時間のかかった母とのズレ」が10日間だけの在宅と言う状況となりました。きっと、この母の受け入れにかかる時間は、すべての人が持つものなのだと実感しています。このズレを解消させるには、このようなフォーラムが若い世代から受けられるべきなのではないかとも感じます
- ・知らないことが多く、イザという時、どうしたらよいのか？
- ・その場にならないと今どうかな？参考になりました
- ・地域の連携に目を向けるきっかけになります。何となく専門職の方に任せばいいと思っていましたが、では、自分はいったい何ができるのかと「暮らしの保健室」を見て少し考えました
- ・在宅看取りの良さが伝わってきました。最期の橋本先生、中山先生、横田さんのコメントが心に響きました
- ・家族の意向を伝える

6ー今後のフォーラム開催の希望について

- ・講演シンポジウムをもっと一般の方に聞いてもらえるようにPRしてほしい。医療関係者は理解している。地域住民の方の一人ひとりの意識や考えを知り、変える、変えてもらうようにする為には重要な事。参加できなかった方々に見てもらえる機会を
- ・今回は超高齢化が進んだ人口密集地ということで、今後の日本の縮図と言えそうですが、地域性がかなり違い、訪問へもアクセスしやすいが、今後はへき地の方やすぐ近くに頼るところがない場所での看取り事例も聞いてみたかった
- ・親を看取ったら終わりではなく、今度は自分が看取られる側になります。今の内に色々な方々の声を聞き、フォーラムに参加をして、自分の最期の予想図を描いていけたら良いなと思います。そのためにもフォーラム開催の広報を大きくお願いしたいと思います。
- ・学校の先生などに聞いてもらいたい
- ・高齢者のカウンセリング機能に関わる理解を勧める内容。高齢者の市のあり方、望ましい死亡への導き方自分で選択できるスキル
- ・当事者意識を持ってみんなで考える事は大切だと思いました。貴重な講演をありがとうございました。もっと市民さんの参加が増えたらいいなと思いました
- ・個人情報管理が甘い。なっていない。受付で他の参加者の連絡先が目に入ってしまった
- ・今回の様に現場のお話をお聞きしたいと思います
- ・フォーラムの対象は？一般の人？それによって発表内容も変わってくる。参加者は医療・介護・看護関係者が多いように思われましたが。内容は楽しく聞かせて頂く事ができました。有難うございました
- ・地域の支え合う視点においた実践と今後の取組み方法を知りたい
- ・事例の紹介がありとても解り易かった
- ・現在の医療制度について具体的に知りたい。たとえば15日ルール、30日ルールとは、又、医療報酬について等を教えてほしい
- ・在宅介護と地域の連携について、地域で幅広い議論が必要と考えます
- ・本日紹介された以外の職種の紹介もしてほしい
- ・地域包括ケアシステムと一言で言いますが、実際、この湖北の地で実践に繋げた事例を地域の方に知って貰うと良い
- ・社会全体における理解度を高める事を継続的に実施してください
- ・認知症の人への支援、家族のサポートについて
- ・マンパワーを如何に集めるか
- ・多職種連携⇒広がってきました。ヘルパー・薬剤師・CM・Dr・Ns。他のリハビリ職、栄養士もって在宅に入ってもらうために連携を！！
- ・フォーラム開催のPRが乏しいのでは？参加が少ないのでは 残念です
- ・医療や介護のややこしい用語やお話を、随時手話によって伝えて頂いた。手話通訳の方に感謝させて頂きたいと思います。有難うございました

～質疑応答～

1、基調講演について

Q 訪問看護師さんから

要介護度に合わせて依頼がありますが、要支援の方の依頼が少ないのでどのようにすればよろしいか？

A 杉本先生からコメント

予防段階で「何をしてくれるの？」と言われると言葉に詰まりますが、独居の場合など、日頃の健康を支える事は後々の安心に繋がる。暮らしの保健室のような所があると、要支援の手前の方たちに、「如何に予防的に関わる事の大切さ」を押し付けでなく話す事ができるので有効。

医療がないと訪看の導入はハードルは高いが、長い目で見た時にどちらが大切かをケアマネさんに伝える。かかりつけ医と同じように、早い段階から関係性を築く事の大切さをケアマネさんに強く話していく事が大切。

2、シンポジウムについて

Q 会場から杉本先生に

「暮らしの保健室」の立ち上げや運営について

A 新宿で開設された「暮らしの保健室」は助成金で運営している。全国から見学にも来られ、情報を持ち返ってその地域の特色やニーズに合わせて展開されている。医療や介護に詳しい有職者や地域で活躍したいと想っている人を呼び込んで勉強会などを開催し、まずは集うこと。地域ネットワークやマンパワーを集める事。又、国や地方自治体はこのご時世、地域連携等に助成金を使って欲しいと思っているので、事業展開に適した情報を、リサーチして市に申請すると良い

Q 会場から増田薬剤師さんに

今後の薬剤師に期待する事と、どれくらいの頻度で訪問できるのか？料金は？

A かかりつけ薬局の機能を発揮し、連携が取れる体制づくり。

服薬支援は6日間空けなければならないので4回／月、緊急時に4回／月の訪問が可能。

「薬剤師が行う在宅訪問のご案内」にも記載されているが、介護保険がない方は医療保険で訪問が可能。料金はその方がお持ちの保険の種類によって異なる。

Q 会場からシンポジストの方に

暮らしの保健室を含めて今後の在宅医療のあり方の考え方や工夫について

A <<橋本先生>>

人間だし、在宅医療には限界がある。病院と同じ質の医療を追求するのではない。在宅死にこだわる必要はないが、最期を自宅だと希望される方にはそれなりに最後までお付き合いします。病院に行けば回復され、胃ろうやチューブで数年～十年と生きる事ができるが認知機能も落ちる。最初に思い描いていた事と違う。高齢者の命、その人の人格は脳にある。人間の死について大事に考えていくしかない。

<<中山ケアマネさん>>

暮らしの保健室の取組みは素晴らしい。湖北では在宅看取りが多く、同様に高齢化率も高い。若い方は出て行くと、介護される方も不安が強い。今朝も電話があった。すぐに専門職と連携し対応。

湖北ではあさがおネットも活用され連携が取り易い。利用者や家族の立場に立って支援していきたい。

<<ご家族>>

家で見る覚悟はしているが、苦しまれると「病院で酸素を当てた方が楽だろうか」と迷う。今が正念場で、現在、市立長浜病院でお世話になっている。介護疲れは社会参加ができ難い事がつらい。

色々サービスをお願いして社会参加している。

<<杉本先生>>

湖北の連携の素晴らしさを教えて頂いて、皆さんは幸せだと思います。

橋本先生が言われるように在宅死が全てではないですが、自分の最期を選択する事ができる時代。

一人ひとりがそういう気持ちの中で地域を作っていくしてほしい。

Q 「専門職ができる事」を何処に相談すればよいか？

A 苗村座長から

保健所にもパンフレットなど情報を持っているし、地域包括支援センターや長浜米原地域医療センター等に連絡すると良い。